

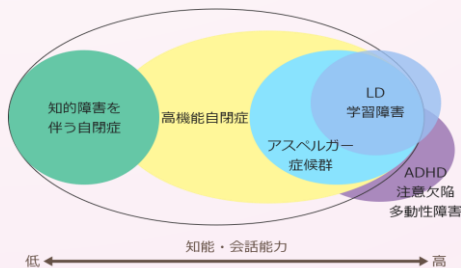


# 多様性を尊重する教育

—すべての人にあたたかい教育環境を—

私たちは、ターゲット4.5「2030年までに教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民、状況の変化を受けやすい子どもなど、社会的弱者があらゆるレベルの教育や職業訓練を平等に受けられるようにする。」に着目しました。  
探究活動にあたり教育現場の現状を調べ、**発達障害がある子どもへの周囲の理解不足**が重要な課題であることを知りました。  
そこで私たちは、教育の場において何よりも重視されるべきであると考え、**『多様な個性を尊重し合える環境』**を築くために、探究活動を始めました。

自閉症スペクトラム (広汎性発達障害)



## 発達障害とは？

定型発達の人とは異なった脳の特性を持って生まれてくるため、成長・発達の方に偏りが見られるものです。連続していたり重なり合っていたりしており区切りがないことが特徴です。

## 発達障害についての認識

(文部科学省実施学級担任へのアンケート調査)

Q1. あなたのクラスに発達障害がある子どもはいますか？

A. 「はい」が全体の**6.3%**

→ 40人学級に**2,3人**ほどいる

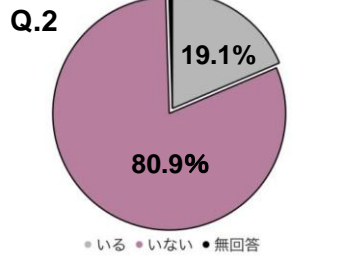
(広島大学研究論文集より「発達障害に関する知識と理解」)

Q2. あなたの周りに発達障害の人はいますか？

A. 「いない」が全体の**80.9%**

→ 発達障害を抱える人の存在に気づいていないと思われる人が多数

⇒ 発達障害を抱える人と自分の近辺を無意識的に切り離して認識しがちであることがわかりました。



**【仮説】** 発達障害を抱える人の実態と私たちの認識とのギャップに問題がある。

北九州市保健福祉局障害福祉部精神保健福祉課様・北九州市発達障害者支援センターつばさ様へ仮説をもとにインタビュー調査し、以下2点の現状を知りました。

- ・発達障害を抱える人の実態と私たちの認識との間に大きなギャップがある
- ・多くの規則があり様々な人と関わっていく学校で困難を感じている子どもが多くいる

## まとめと今後の展望

終わりに、発達障害は**病気や性格ではなく1つの個性**です。今日、教育の場において、発達障害を抱え周囲とうまく溶け込めなかったり、学校生活に困難を感じていたりして悩んでいる人が数多くおり、私たちはこの現状を変えたいと考えています。私たちは、すべての人が無理なく質の高い教育を受けられる環境を作ることは、SDGsすべてのゴールを通し誓われている**「誰1人取り残さない」社会と、素敵な未来を創ることに必ず繋がると**確信しています。一方で、私たちの探究活動ではターゲットが幼児期に絞られてしまうことが課題であると考えます。今後、この課題の解決と多様な個性を認め合える教育環境作りのため、より多くの場での絵本の活用や、あらゆる世代に対し発達障害の正しい知識を得てもらえるような活動、絵本の多言語化、読み聞かせなど広い視野を持ってこの活動を続けていきたいと考えています。どんな個性をもつひと笑顔あふれる教育の場を、私たちの手で、今後さらに増やしていきませんか？

## 課題解決のための目標

- ①多くの人が、**発達障害について正しい知識が得られる教育を受けられるような機会を提案する**
- ②周囲が発達障害の正しい知識を持つことで、**当事者が無理なく教育を受けられるような環境づくりに繋げる**

## 目標達成のためのアクションプラン

「人とのかかわりあいを学ぶ頭の柔軟な幼児期に、多様性を理解した上で正しい認識を持ち対応を学ぶこと」

→ **絵本を用いることにしました**

Q1.なぜ幼児期に？

A. 文部科学省のHPでは、「幼児期は道徳性や社会性の基盤を育む時期」と定義されています。そこで私たちは、人間関係が複雑になる学校という共同生活・教育の場に入学前に多様性を理解することで、入学後より円滑に人間関係を築くことができると考えたからです。

Q2.なぜ絵本で？

A. 多様な個性を受け入れ認め合う考え方を多く吸収してもらうために、子どもたちが一番興味を持って学んでくれるものとして、絵本を用いることで抵抗なく学んでもらえると考えたからです。

## 絵本製作

①製作した絵本の下書きをもとに、インタビューさせていただいた2つの機関の方、北九州市立ユースステーション様や市内の幼稚園教諭の方々に専門的な意見をもらい、それを踏まえ再編を重ねました。



絵本には学校での1日の流れの中で、発達障害を持つ子供が困りうる**3つの場面**をピックアップして描き、みんなが嫌な思いをせず過ごすにはどうしたらいいか、ところどころにヒントを組み込みながら問いを投げかけています。

②製作した絵本を学校法人モン・カルカ学園緑ヶ丘幼稚園様で実際に使用してもらい、

「自分たちの教育の公平性を見直すことができました。」  
「当事者やその家族がこの活動を知ると、不安を感じやすい対人関係への安心感を得られてよい。」  
などありがたいご意見をたくさんいただきました。

## ポイント

絵本には、発達障害というワードや具体的な症状名は一切用いておりません。それは、発達障害を病気や性格ではなく**多様な個性の1つ**として理解してもらいたいからです。どんな人に対しても、**偏見や固定観念のフィルターを通して見ることのない目と心を養ってほしい**という私たちの願いが込められています。

## 参考文献

- ・文部科学省HPより『子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題』(2009) [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/shiryo/attach/1282789.htm)
- ・広島大学保健管理センター研究論文集『発達障害に関する知識と理解』(2012) [https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/32557/20141016190826264038/SogoHokenKagaku\\_28\\_1.pdf](https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/32557/20141016190826264038/SogoHokenKagaku_28_1.pdf)
- ・北九州市障害者支援センターつばさ(2022) <http://www.tsubasa.kitaq-src.jp/introduction.html>